



エイズ通信 Vol. 13 福島県医療ソーシャルワーカー協会

先日、エイズに関する意識調査を行いました。協会委員の方にはお忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。全項目の集計ができあがりましましたので公表したいと思います。尚、平成21年に行われた調査との比較も後半に掲載しておりますのでご参照ください。

[エイズに関する意識調査]

1. 年齢

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
人数	37	36	6	5	1	85

2. 経過年数

	1年未満	1～3年	4～6年	7～10年	10年以上	無回答	合計
人数	1	30	7	13	33	1	85

3. 職種

	MSW	PSW	支援相談員	その他	合計
人数	76	3	5	7	86

※重複あり ※その他：生活相談員（1）、ケアマネ（1）

4. 勤務先

	一般病院	精神科病院	老健	その他	合計
人数	74	1	5	7	87

※重複あり ※その他：回復期病院、療養型病院、グループホーム、特養、居宅

5. あなたの所属は医療機関ですか？

	はい	いいえ	合計
件数	77	8	85

6. エイズ拠点病院ですか？

	はい	いいえ	未記入	合計
件数	34	42	1	77



○以下「はい」が a～h に回答

a. 何科で診療しますか

	内科	呼吸器科	症状の診療科	血液内科	不明	未診療	未記入	合計
件数	16	9	9	1	2	1	5	43

b. 院内での受け入れのため、ケアに関する研修が行われていますか？

	はい	いいえ	不明	未記入	合計
件数	7	25	1	1	34

c. 外来診療時や病棟にプライバシーを守る場所が用意されていますか？また、用意することができますか？

	はい	いいえ	不明	未記入	合計
件数	30	2	1	1	34

d. 院内にHIV医療チームが組織されていますか？

	はい	いいえ	不明	未記入	合計
件数	3	26	2	3	34

e. HIV患者さんが個室に入院した場合の個室料はどうなりますか？

	負担あり	負担なし	その他	不明	未記入	合計
件数	11	5	4	6	8	34

※その他

・本人希望の場合は負担あり。治療上必要なら負担なし。 ・部屋の空き状況、病棟判断等。

f. MSWの部屋にはプライバシーを守る面接室がありますか？

	はい	いいえ	合計
件数	32	2	34

g. MSWの部屋には直通の外線電話がありますか？

	はい	いいえ	合計
件数	28	6	34

h. 病院にカウンセラーはいますか？

	はい	いいえ	未記入	合計
件数	19	8	7	34



i. あなたの所属されている医療機関は？

	一般	精神科	未記入	合計
件数	31	1	3	35

※重複1件

7. これまでにHIV感染者・エイズ患者の方の相談や支援をしたことがありますか？

	はい	いいえ	未記入	合計
件数	10	66	1	77

「はい」のうち

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	合計
件数	4	1	1	4	1	5	1	1	5	1	24

a：医療費公費負担申請 b：生活保護の申請 c：給付金制度（障害年金など）の申請

d：手続き時等にプライバシー保護徹底を図る心理的サポート e：在宅療養の援助

f：他医療機関等への紹介や連携 g：就労の不安、就職、勤務継続に関する相談

h：家族（パートナー）調整 i：他機関への紹介・連携 j：その他

8. HIV感染者が来院された場合の対応について整備されていますか？

	はい	いいえ	不明	未記入	合計
件数	9	22	41	5	77

※「はい」の具体例

・院内マニュアル、感染対策委員による対応、院内感染予防マニュアル

9. 今後HIV感染者に関わることがありますか？

	はい	いいえ	未記入	合計
件数	73	2	2	77

※「はい」の理由

・エイズ拠点病院のため、今後はわからない。医療機関に勤める以上可能性はある。

・エイズ患者だとわからずに関わることもある。

・患者数が増えているので関わる可能性がある。

※「いいえ」の理由

・現時点ではわからない。エイズ患者は大きな病院を受診する割合が多いから。

10. 他機関から支援があれば、不安なく支援できますか？

	はい	いいえ	未記入	合計
件数	11	65	1	77

※「いいえ」の理由

・経験不足、知識不足、対応したことがないため、何に配慮してよいかわからない。

○以下11～12、医療機関以外の機関の方が回答

11. 所属機関はどれにあたりますか？

	老健	特養	居宅	GH	合計
件数	5	1	1	1	8

12. あなたの所属にHIV感染者及びエイズ患者に関する相談があることについて不安はありますか？

	はい	いいえ	合計
件数	5	3	8

※「はい」の理由

・満足してもらえる支援ができるか不安。さらに不安を抱かせてしまっては申し訳ない。

・いままで受け入れたことがない。

・知識不足のため、自身がないから。知識不足。

・現状やどのような医療が提供されているかわからないから。



○以下全回答者が回答

13. あなたがHIV感染者を支援すると想定して、どのような情報や研修が必要と考えますか？

	a	b	c	d	e	f	g	
件数	12	60	13	33	47	16	11	
	h	i	j	k	l	m	n	o
	22	32	4	12	7	6	1	0

a：HIV、エイズに関する歴史的、人権問題 b：HIV医療の医学的基礎知識・最新情報

c：医療体制の最新情報 d：HIV医療機関の詳細情報 e：地域で支えるための社会資源の情報

f：コーディネイトのための技法 g：HIV感染者のカウンセリング h：SW間の意見交換や情報交換

i：ソーシャルワークの具体的事例から学べる研修、事例検討 j：感染者・家族と顔を合わせて話ができる研修

k：HIV医療チームとの多職種間交流 l：家族会・セルフヘルプグループとの交流

m：公的機関との交流 n：機関紙、情報誌発行 o：その他

◎エイズ委員会へのご意見・ご要望

・H I Vやエイズの関する医学的知識も必要ですが、去年の講演会のように同性愛者、当事者からの話を聞き、セクシャリティや人権などについて考える機会があったら良いと思う。

・エイズの問題はまだまだ広がっていくと思います。協会委員のみならず、多くの方々に正しい知識を持ってもらえるよう今後の活動を期待している。

・委員会運営大変です。拠点病院以外のMSWが初期相談を受けるかもしれないという危機感と、知識がない、という自覚が広まると委員会活動も活発になると思います。それまでに地道に活動することが、協会の中でも大変重要かと考える。がんばってください。

・「エイズに関する手引き」をいただきたい。

・いつも広報誌（通信）等にて参考になっている。なかなか都合がつかず研修会や勉強会には参加できず、申し訳ない。

・定期的受講できる研修会があれば、情報も得やすくなるのではないのでしょうか。

【考察】

・7の項目について。相談は公費の申請、心理的サポート、他機関への紹介が多い。自分の機関だけではなく、他医療機関の受け入れ体制や窓口等も知っておく必要がある結果となりました。

・b、dの項目について。この結果を見ると、受け入れの体制は整っていても、まだまだチームで関わっている状況ではないのがわかります。

・8の項目について。病院内での実際の対応については把握していない方が多いようです。

・9の項目について・エイズへの対応について、かなり意識が高いことがわかりました。個人で勉強するには限界があるため、エイズ委員会で研修の企画や広報誌を通して情報提供できるようにしていきたいと思えます。

・13の項目について。医学的知識・最新情報、H I V医療機関の詳細、社会資源の項目が多くありました。医学的な情報提供ができるように検討していきたいと思えます。

・H I Vとわからずにかかわるかもしれないとの意見がありました。異性間の感染は気付かないことが多く、感染がわからずに小さな病院を受診する可能性もあり、エイズとは関係ないことでMSWと関わる可能性もあります。どのような状況でも柔軟に対応できるように準備をしていく必要があると思えます。

【平成21年度との比較】

前回平成21年に同様の内容でアンケートを実施しました。いくつかの項目で前回と比較して考察してみました。（比較するために％で表記してあります。）

◎7. これまでにH I V感染者・エイズ患者の方の相談や支援をしたことがありますか？

	はい	いいえ	未記入
平成21年度	12%	88%	0%
平成27年度	13%	85.7%	1.3%

前回と大きな変化はありません。

◎9. 今後H I V感染者に関わることがありますか？

	はい	いいえ	未記入
平成21年度	90%	7%	3%
平成27年度	94.8%	2.6%	2.6%

前回と比べて関わるがあると答える方が少し増えています。

◎10. 他機関から支援があれば、不安なく支援できますか？

	はい	いいえ	未記入
平成21年度	9%	87%	0%
平成27年度	14.3%	84.4%	1.3%

前回と比べて不安なく対応できると答える方が少し増えています。

◎12. あなたの所属にHIVの感染者及びエイズ患者に関する相談依頼があることについて、不安はありますか？

	はい	いいえ
平成21年度	88%	12%
平成27年度	62.5%	37.5%



前回と比べて不安があると答える方が大幅に減っていました。

前回と比較すると実際に相談を受けている割合は変わりませんが、対応することに対し不安に思っている方が減っており、今後関わっていく必要があると思う方が増えています。この結果やご意見等を見ると、今まではどう対応していいかわからない病気という認識から、MSWが支援する患者という認識に変わりつつあるのではないのでしょうか。

慢性疾患という認識が普及してきており、ニュースでも様々なエイズの問題が取り上げられるようになりました。皆さんの目に留まる機会が多くなっており、一般の方もより身近な問題としての認識が高まっていると思えます。エイズ委員会としては通信の発行や研修会を通し、より専門性の高い情報を協会員に発信し、不安なく対応できるが100%を達成できるように今後も精力的に活動していきたいと思えます。